だっこするよ

2023年9月

北区立赤羽台保育園
園長　奥戸　昌子

脳は、他者との関わりで育つ

９月を迎え、朝夕ほんの少し…蒸し暑さが和らぎつつあります。この夏の暑さ、プール活動は、数回しか出来ず残念でした。でも良かった点もありました。室内遊びや制作をたっぷりと楽しめたことです。子ども達がそれぞれにやりたいと思うものに向き合う時間となりました。互いに遊び方を真似て、習いながら創意工夫が生まれていました。

今年も夏休みを利用して小学生のボランティアさんたちが沢山来てくれました。中当てで、いつもはボールを取り合うのに、小学生がボールを周りの子に渡す姿を真似て、自分が投げた後は、友達に譲ってあげる姿が見られたと担任が嬉しそうに話してくれました。誰かを思いやる気持ち、利他的な姿に感動して真似をしたくなったでしょうね。育ち合う姿に自分にも他者へも信頼が生まれています。

先日、京都大学大学院教育学研究所　明和政子氏の講演を受講しました。著書は拝読していたのですが、直接お話を伺ったのは初めてでした。

「ヒト（ホモサピエンス）は、他者との接触なしでは、生きられない。特に乳幼児期の脳の発達には、他者との身体接触は、不可欠である。脳発達の「感受性期」は、環境の影響を受けやすい。乳幼児期の環境経験は、その後の人生の脳と心の発達に直接的に影響する。子どもの脳は、大人の脳の小型版ではない。成長過程であり、脳の成長は、25年以上かけてゆっくりと成長していく。自分の身体をもって、痛い、心地よいと感じる経験、ヒトは、自分の体を使って実験と観察を繰り返しながら、脳を成長させていく。人の学びは、他者からのフィードバックで学んでいく。他者と一緒につくりあげる共創性＝非認知能力である。その学びを支えるのは、乳児期の特定の人との愛着関係と幼児期の多様な異年齢での体験である。脳が、環境によって変容する子ども期にこそ、今まで以上に意識的に体を使って触れ合える環境を保障しなければならない。」と話されました。

生涯に亘って well-being 幸福で健康な心身で生きていくためには、脳は、他者と話し合ったり、笑ったり、喧嘩したりと多様に関わること、協同することで育つこと、ソサエティー５．０の時代が訪れても AI の利便性では、育たないこと、人の脳、心、体は、どこまでも他者との関係で生かされ生きていると感じました。保育園は、最高の場ですね。

園では、0 歳から 2 歳の乳児期は、保育者との1対1の育児担当制を行い、愛着関係のもとで、ゆっくりと自分という人間を育てる時間に。3 歳～5歳は、やりたいと思うこと、自分から関わり合い、学び合う異年齢保育を行っています。これからの教育は、より個別性に意味があり、自己選択、自己決定が自分を育てていくと考えます。乳幼児期が、脳の土台を育てる感受性期時代であることを学ぶと、やはり、就学のための準備練習ではなく、様々な体験を通して人間の根っこを育てる毎日にしたいと強く思いました。

さて、９月１日は防災の日です。地球温暖化からの気候変動でハワイを初め大規模な山火事が起き、熱波や豪雨と大規模災害が頻発しています。また、関東大震災から１００年が過ぎ、首都直下地震は、今後、高い確立で発生すると言われています。

いつ、どこで遭うか決して他人事ではありません。大地震が起きた場合は、子ども達は、私たち職員が全力で守ります。保護者の皆様は、先ずご自身の身の安全を第一に避難して、周りの状況が落ち着いてからお迎えに来てください。互いに生きてこそです。防災で大切なことは当事者意識を持つことだとよく言われます。災害時のルールや最寄りの避難先などご家族で確認しておきましょう。

保育園は、児童福祉法及び消防法に基づき、避難訓練や子ども達への防災安全教育を行っています。防災・安全リーダーが BCP 計画（災害後の運営再開計画）を毎年更新しています。生活を守るため一日も早い運営継続を目指します。

今月は、我が家の防災について確認する月にしませんか？家族が一番！写真たんぽぽ組水鉄砲　気持ちいい！！